

小高誠太郎 顧問(初代会長)を囲んで

会報チーム(以下K): 本日はよろしくお願ひします。

まず、設立当初の思い出からお聞きします。

小高顧問(以下O): 平成11年の9月に設立総会があって、あっという間に翌年の4月に稲荷山公園で「桜まつり」が開催できたという印象がある。

K: ファミレスで深夜まで打合せをしたりして担当者は大変だったんですよ。決して、あっという間ではなかった。

O: 会長は細かい打合せには参加しなくて良かったから、そういう大変さの記憶は無い。(笑)

K: 第1回目は薪能をイメージして夜に開催したのだけど、寒かったから板倉 副会長と宮岡会計が差し入れてくれた熱々の甘酒が好評でしたね。

O: 実を言うと、観客や出演者が殺到したから、私は飲めなかったんですよ。

K: 余りに寒かったので、第3回からは昼間の開催になったのだけれど、夜の間に舞台を汚されるといけないので、閉園になる時間までみんなで宴会をしたのも懐かしい。

O: 当時は智光山公園に管理事務所があったのだけれども、使用許可を得るのに苦労した。私が会長だった最後の年に観光協会と交渉して話をつけておき、翌年度(第8回)から観光協会との共催になった。

K: 現在は観光協会が交渉してくれるので楽になりました。

K: 会長をされていた時代で何が一番印象的でしたか。

O: 県の文団連の会議などで他市の活動を聞いていると、「青少年文化体験フェスタ」は他の団体が出来ない事だと思った。全小学校全生徒に案内文

書を配るようにしたのも画期的なことですね。これも他市では容易には真似が出来ない事でしょう。

K: 第1回、第2回は学校開放推進校であった入間川小学校で開催しました。(註: 第1回は富士見小でも併催)

O: 当時南小の山本校長が見学に来られて「入間川小だけでやらなくても、うちの学校でやったらどうか」と言われたことが最も印象に残っている。私も校長を経験しているので分かるのだが、学校を開放する事はとても大変なことなのです。

K: 山本校長の協力があって、第3回は転勤された狭山台南小学校で開催できた。その実績ができたから、今のように全小学校を回って開催できるようになったといえますね。

O: 校長会へ出席して趣旨説明した事も良く覚えています。そういった実績があったから話を聞いてもらったのだと思います。

K: 今や体験フェスタはすっかり定着しました。子どもたちの募集など手間の掛かる事業だけど、それだけ手を掛けているから定着したのでしょうか。

O: 第1回の狭山市民芸術祭も印象に残っています。展示もテーマ「道・土・炎」に沿った作品を出展したし、舞台も結果的には大ホールを満杯にして、大成功に終わったのだけれども、さねとうあきらさんの脚本によるページェント劇「狭山いまむかし」を実現するに際しては、大変な苦労があった。脚本に沿って舞台を作るなど、どの団体もやったことがないので、皆面食らっていて、調整が大変だった。

K: 3つの小学校の児童にも出演してもらったので、



第15回 桜まつりは 好天、満開の桜の下で



昨年は悪天候のため中止になりましたが、今年の第15回桜まつりは4月5日(土)・6日(日) 狭山稲荷山公園の特設会場で実施。開催予定日と花の咲き具合は自然条件任せのため、毎年やきもきするところですが、今回は1日目は最高のコンディションで実施することが出来ました。

2日目は午後に天候が急変し雨に降られましたが、一部演目の変更があったものの最後までプログラムを実施できました。

司会は2日間とも狭山市出身の演歌歌手中島まさるさんを中心に、円滑に場を盛り上げて進行することが出来ました。

2日目にはマジックショー ZAKUTOの特別参加があり、籠脱け他、まか不思議な妙技の数々が披露されました。また、観光協会による模擬店は9店舗が出店、友好都市の新潟県の津南町からも参加、農産品等の販売があり、まつりを盛り上げ楽しむことが出来ました。

参加団体の皆様、ボランティアの方々、公園の関係者の方々、市役所の方々、音響さん、舞台作成の工務店さん、その他大勢の皆様のご協力ありがとうございました。

実行委員長 中村 伶華

O?X

市制施行60周年にちなむ「狭山クイズ」の実施

今回は狭山市制施行60周年記念として、プログラムの中に両日とも狭山にちなんだクイズを取り入れました。

当選者には500円の模擬店金券を用意、会場の大勢の皆様が参加し狭山市に関する問題をO×で楽しみました。

問題が簡単だったためか、最後は残った多数の人と司会者とのじゃんけんで決勝となり、盛り上がった中で当選者各5名が決まりました。

予想以上にスムーズに楽しくまとめることが出来ました。